

3・1ビキニデー 北海道集会開かれる

2月14日(土)、今年の3・1ビキニデー北海道集会が開かれました。原水協を中心に被爆者連絡センターを含む実行委員会の主催です。

午前中に新藤兼人監督の「第五福竜丸」が上映されました。午後2時から集いが開会。冒頭の挨拶で宗平協の殿平善彦さんが「大変な時代になってきたが、市民運動が憲法を支えてきた。一歩でも前に行くしかない」と挨拶。ついで読経、献花、平和への誓いがあり、日本被団協事務局



次長の児玉三智子さんが「平和への願い」と題して講演、被団協のノーベル平和賞受賞は被爆者を支えともに運動してきた皆さん方のちからがあつてこそ、一緒に喜びたい、と話された後、「80年

が経った今でもあの日が消えることはありません」と、ご自身の痛切な被爆体験を語り、核なき世界の実現を訴えました。

ついで集会特別決議、「日登寺」原爆の火を守る募金の訴え等があり、平和への思いを固めて集いを終えました。

年明けも多彩な取り組みが

被爆80年は会館への見学者とともに被爆者等を招いての外での学習会が多彩に行われました。2月末現在、会館への見学者と、札幌市の被爆者派遣事業を含め、被爆者や二世等を招いての学習会に参加した人数が7700名を超え、歴代4番目に多いことがわかっています。いくつかの事例を報告します。

学校現場で平和をどう教えるべきか

北海道歴史教育者協議会の皆さんが1月5日に冬期研究会を実施、最近生徒の中にも「どうして核兵器を持つてはダメなの」という声が出てきている、そうした現状を踏まえ生徒に何をどう教えるか、教員、学生を中心にした70名ほどの参加者が熱心に討議をしました。会の冒頭では、第五福竜丸展示館の学芸員市田真理さんと被爆者連絡センターの北明が問題提起をしました。

「はだしのゲン」の世界を確かめる子どもたち

1月14日、江別市いずみ野小学校から6年生十数名が、教員・父母とともに見学に来ました。被爆二世の川去裕子さんが語る父の被爆体験をきいた後、二階の資料を熱心にみていました。

秋の発表会で「はだしのゲン」の劇を行なったので、原爆のことをもっと知りたい



計画して引率してきた母親は「戦後80年の年なので、子どもたちに戦争のことを伝える取り組みをしたかった。今回の機会がえられてよかった」と話してくれました。

大阪からは労働者たちが

2月20日、大阪から青年層を中心にNTT労組西日本の皆さん約25名が会館へ。限られた時間の中、センターからの話を身じろぎもせず熱心に聞き、展示を見ていききました。NTT労組は核兵器廃絶への取り組みを熱心に取り組んでいます。



